

# 本当に 私たちは患者さんの人生と向き合えているのだろうか？

Ethics is about choices. (倫理は詰まるところ選択である)

## 患者さんの枕もとで実践する倫理

12月18日の午後後に感染対策として窓を開け、金城隆展先生（琉球大学医学部附属病院地域医療部・臨床倫理士）を講師に、約80人でカード式事例検討会を行いました。



事例の患者さんは、多発転移のある前立腺がんの末期の沖縄のオジイです。自宅では穏やかなのに、入院すると人が変わったように、日暮れから翌朝にかけて暴言が繰り返されます。入院から数日たったある日、オジイは点滴の管を引き抜き、点滴台をやりのように構



## カード方式で開催 みんなで頭を絞って考え抜くII臨床倫理

事前に事例の全体像は

えて、看護師に突撃してしまいました。参加者は、それぞれカードにオジイの断片的な情報を持ち、グループのメンバーとの対話の中から、オジイの物語を紡いでいきます。それぞれの限られた情報をもとに、質問と対話を繰り返し、「患者さんは、『自分がなぜ病気になっ

たのか?』と思う」「この病気に意味があるの?」という具合に、オジイの突撃の真相に迫っていきます。詳細は伏せますが、「みんなでオジイの人生の物語や文脈をくみ取り、治療やケアを工夫することで、せん妄などの『問題行動』が一切見られなくなった」という事例でした。

## 実践する倫理を自分で体系的に考える

出会ったたびに「これは習ったことがない」となり、思考停止に陥ってしまう。金城先生のサポートを受けながら、考え抜きました。

参加者には知らされていなかったのですが、どのグループも多職種での対話に花が咲きました。大切なのは、「こういう場合にはこうする」という画一的なマニュアル（処理方法の手引き）を求めないことです。現場で発生する問題は、ケースによって多種多様です。マニュアルに答えを求める姿勢では、新しいことに

参加者には知らされていなかったのですが、どのグループも多職種での対話に花が咲きました。大切なのは、「こういう場合にはこうする」という画一的なマニュアル（処理方法の手引き）を求めないことです。現場で発生する問題は、ケースによって多種多様です。マニュアルに答えを求める姿勢では、新しいことに

ペンネーム T子&Tigra

くわしくは 3月号に続く

## 無料低額診療事業

### ラジオで紹介しています

昨年12月16日（木）から3月15日（火）まで、毎日放送ラジオと朝日放送ラジオで、以下の文面で流れています。



「病院に行きたいけどお金がない。まずは耳原病院へご相談ください。無料低額診療を利用できるかもしれません。ご相談は、フリーダイヤル0120-667-334（平日10時～16時まで）。ウェブは、耳原総合病院で検索」

\* 同仁会のクリニックに通院している方は、クリニックでご相談ください。

## 4つのステートメント(案)

性の多様性を認め合える組織へ 医療・介護の従事者として求められる「個の尊厳」を支える役割

### (1月号の続き)

三つ目に、日本の学校教育では1979（昭和54）年まで、中学・高校において同性愛を「性非行の中の倒錯型性非行」として生徒指導の対象としていたということです

は、「反対が7割近いそうです。

このように、世界、そして日本において性の多様を受け入れる流れは進んでいます。とはいえ、現実的には異性愛者が9割超を占め、同性愛者は1割未満の圧倒的少数派です。そうした現実に対して札幌地裁の判決は、「個の尊厳」を支える役割も、医療・介護の従事者として求められます。では実際に医療や介護の現場で何が求められるのか、どんなことができるのか、これからの意識を、学び、考えていくことが求められています。

## 4つのステートメント(案)

- \* 同仁会はジェンダー平等の社会を推進します
- \* (仮称)性の多様性を認め合える組織へ
- \* 互いを尊重しあい、ハラズメントが発生しない職場づくりをめざそう
- \* 平和、地球環境、人権を守る運動を現場・地域から広めよう

は、2017年の台湾、13年のロシア、14年のベトナムの例があります。昨年12月には、南米のチリで合法化されています。五つ目に、国内の意識調査でも同性愛・同性婚を認める意見が増えてきており、とくに30代以下では賛成が7割を超えるようになっていきます。一方で、同性愛を指導の対象とされていた年齢層（現在の60歳以上）で

前月号の記事の一部は編集上の誤りで、記載がまちがえておりました。お詫びし、左の通り差し替えます。(同仁会報編集委員会事務局)

一つ目に、性的指向（異性愛か同性愛か）は「人生の初期か出生前に決定され、選択するものではない」というのが今日の医学や心理学の見解だということです。つまり、皮膚の色、肉体的性別、出自などと同様に、「意思で選ぶものでも、意思により変えられるものでもない」ということです。

二つ目に、医学の世界において、同性愛は長らく病気として取り扱われてきましたが、1980年代〜90年代にその考えは否定されたということです。例えば、1987年にアメリカの精神医学会が、そして世界保健機構（WHO）も1992年に疾患から削除しています。30年以上前のことです。

同仁会 専務理事代行 森 高志